

開設を目標とし、特に、乳幼児の子どもを持つ親のための学級や働く親のための学級の開設促進に努めた。

第二には、家庭教育（幼児期）相談事業を実施し、県内の3歳児を第一子に持つ親を対象として、はがき通信、巡回相談、テレビ放送を行いその効果をあげた。また、幼児後期の子どもを持つ親のための手引書を作成・配布した。

第三には、家庭教育総合推進事業を実施し、家庭教育指導者研究協議会を開催するとともに、家庭教育指導資料を発刊し、その活用を図った。また、「家庭教育電話相談（すくすくダイヤル）」の充実により、電話による幅広い相談に応じ諸問題の解決に効果をあげた。

## 2 家庭教育研究集会

- (1) 期 日 昭和62年5月26日(火)  
 (2) 会 場 小野町公民館  
 (3) 参加者数 400人  
 (4) 対 象 市町村教育委員会・公民館の家庭教育担当者及び学級生代表

## 3 家庭教育（幼児期）相談事業

- (1) 協力機関 市町村教育委員会  
 (2) 実施時期 昭和62年5月～昭和63年3月  
 (3) 事業内容  
 ① はがき・しおりによる相談指導（年間3回）  
 ② 巡回による相談指導（県内8市町村）  
 ③ テレビ放送による指導（15分カラー放送 26回）  
 (4) 対 象 県内の3歳児を第1子にもつ親12,000世帯  
 (5) 各種委員会

- ① 企画運営委員会  
 ア 企画運営委員会は、本事業全般の企画運営並びにはがき通信・巡回相談・テレビ放送による相談指導の方針や実施要項を策定する。

### イ 企画運営委員

(◎印 委員長)

氏 名	役 職 名	備考
阿部 美一	福島市教育委員会社会教育課長	◎
佐藤 貞雄	県児童家庭課長	
庄司 他人男	福島大学教育学部教授	
鈴木 仁	福島県立医科大学教授	
関 ウタ	福島市社会教育指導員	
西久保 禮造	福島大学教育学部教授	
樋口 勝也	桜の聖母女子短期大学助教授	
丸子 一夫	県公衆衛生課長	
水野 文雄	福島テレビ報道制作局長	
山脇 道子	福島市御山保育所長	

### ② はがき通信委員会

- ア はがき通信委員会は、はがき並びにしおりによる通信指導の企画運営にあたる。

### イ はがき通信委員

(◎印 委員長)

氏 名	役 職 名	備考
遠藤 久江	県立会津短期大学助教授	◎
大宮 勇雄	福島大学教育学部講師	
今野 金裕	心身障害児総合療育センター部長	
佐藤 延子	福島大学附属幼稚園副園長	
関口 はつ江	郡山女子短期大学部教授	

### ③ 巡回相談委員会

- ア 巡回相談委員会は、巡回相談指導の企画運営並びに市町村を巡回して、直接家庭教育の相談に応じる。

### イ 巡回相談委員

(◎印 委員長)

氏 名	役 職 名	備考
新家 淳子	家庭教育電話相談員	◎
加藤 一夫	福島県立医科大学講師	
河野 義章	福島大学教育学部助教授	
小森 澄憲	郡山女子短期大学部教授	
辻 紀美子	田村町つつみ幼稚園副園長	
林 借子	郡山女子短期大学部助教授	
樋口 勝也	桜の聖母短期大学部助教授	
松崎 博文	福島大学教育学部助教授	
山脇 道子	福島市御山保育所長	
渡辺 俊彦	福島女子短期大学教授	

### ウ 巡回市町村

東和町、郡山市、浅川町、泉崎村、新鶴村、只見町、楢葉町、いわき市

### エ 巡回相談参加者状況

参加者数 368人（個別相談 74人）

- ④ 4・5歳児の家庭教育手引書の作成・配布  
 県内の4歳児をもつ親を対象に、「すこやかな成長をねがって」を家庭教育の手引書として配布した。

## 4 家庭教育総合推進事業

- (1) 実施時期 昭和62年4月～昭和63年3月  
 (2) 研究主題 「現代社会における家庭教育」  
 ～家庭と家庭とを結ぶ地域の役割～  
 (3) 事業内容

### ① 企画推進委員会の設置

- ア 企画推進委員会は、全県的な視野で研究主題をとりあげ、分析検討し、これらを家庭教育指導資料としてまとめる。

### イ 企画推進委員

(◎印 委員長)

氏 名	役 職 名	備考
阿部 真樹	福島県PTA連合会長	◎
岩城 教夫	県教育センター教育相談部長	
小野 直広	福島大学教育学部教授	
笠原 憲昭	福島市中央公民館長	